

外国語としてのカンボジア語教育と能力測定に関する報告

上田広美

1. はじめに
 2. 外国語としてのカンボジア語教育
 - 2.1. カンボジア国内の例
 - 2.2. カンボジア国外の例 (東南アジア研究夏期集中講座 SEASSI)
 3. カンボジア語能力の測定
 - 3.1. カンボジア語講座における筆記試験の出題例
 - 3.2. 東京外国語大学のカンボジア語統一試験
 4. おわりに
- 補足. カンボジア国内の外国語能力測定について

1. はじめに

カンボジア語 (クメール語とも呼ばれる) は、カンボジア王国の国語であり、類型論的には孤立語に分類され、固有の表音文字を用いる。外国語としてカンボジア語を学ぶ学習者にとっては、この固有の文字と音声の対応の複雑さが最も学習困難な点となっている。

外国語としてのカンボジア語教育は、カンボジア王立プノンペン大学を中心に、内戦の影響で移住したカンボジア人の多い米国、フランス等で、また、近年はカンボジアへの経済的関心の高まりに伴い、中国、韓国でも行われている。日本では、東京外国語大学のアジア・アフリカ研究所での言語研究の成果として、教材や辞書¹が出版されてきたほか、集中講座として「言語研修カンボジア語」が行われ (1985 年)、1992 年からは、同大学外国語学部 (2012 年から言語文化学部および国際社会学部) で定員を設けてカンボジア語を専攻する学生を募集するようになった。しかしながら、1970 年代から 20 年以上続いた長い内戦の影響により、教材、教授法、さらに言語能力測定については、他の東南アジア諸国の国語と比較すれば、カンボジア国内外を問わず、研究が進んでいるとはいえないのが現状である。また、各教育機関単位での独自のレベル分けや修了試験をのぞけば、能力測定試験や、レベル分けの統一的基準も存在しない。

本稿では、王立プノンペン大学社会人文学部国文学科の教員である VAN, Sovathana 先生、KEP, Sokunthearath 先生のご協力を得て調査した外国語としてのカンボジア語教育の現状と、過

¹ 『カンボジア語辞典』 (上・中・下巻) 坂本恭章、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2001 年。

去 20 年にわたる東京外国語大学におけるカンボジア語教育の経験から考察したカンボジア語能力の測定の可能性について述べる。

2. 外国語としてのカンボジア語教育

2.1. カンボジア国内の例

王立プノンペン大学 (the Royal University of Phnom Penh) は、国立の総合大学であり、1960 年に設置された王立クメール大学 (人文学部、科学技術学部) を前身とし、1970 年にプノンペン大学と名称を変更した。内戦による閉鎖期間を経て、1980 年に教員養成大学及び外国語研究所として再興され、1988 年にプノンペン大学となり、1996 年に王立プノンペン大学に名称を変更した。

2013 年現在は、自然科学部 (生物学科、化学科、情報処理科、環境学科、数学科、物理学科)、社会人文学部 (地理学科、歴史学科、国文学科、メディア・コミュニケーション学科、哲学科、心理学科、社会学科、社会福祉学科、観光学科)、外国語教育研究所 (中国語学科、英語学科、仏語学科、国際関係学科、日本語学科、朝鮮語学科) から構成されている。

上記の学部と研究所以外にも、カンボジア・日本協力センターなどの複数の組織があり、そのひとつとして、「外国人のためのカンボジア語 (Khmer for Foreigners)」コースがある。

「外国人のためのカンボジア語」コースは、1983 年に、カンボジア国内に派遣された非政府組織の外国人職員を主な対象として開講された。30 年を経た現在の受講生は、通常講座では、カンボジア在住の韓国人が大半を占めており、そのほかに、海外の大学から数週間から 1 年間にわたって派遣される学生を対象とした特別講座も開かれている。

通常講座のカリキュラムは、4 レベルから構成され、年に 4 期 (1 期は 8-10 週) 開講する。授業は、1 日に 90 分 (月曜-金曜) である。教員は、国語・国文学を専門とする専任教員が 6 名であるが、特別講座は他学科 (主に社会人文学部国文学科) の教員も担当する。

4 つのレベルの学習内容は、レベル 1 は、文字の基本 (子音文字、母音記号、その他の記号、独立母音文字、子音の脚文字) と日常会話 (名前、国籍、生年月日、出身地、買い物) を、レベル 2 は、文字の復習と日常会話 (レストラン、郵便局、学校) を学ぶ。レベル 3 は、文法と語彙に加え、グリーティング・カードや手紙の書き方を学び、民話を読む。レベル 4 は、カンボジアの文化や文学についての読み物を読み、文字の歴史も学ぶ。すべてのレベルを修了した後、希望者は社会人文学部国文学科の授業を聴講することができる。

この「外国人のためのカンボジア語」コースは、プノンペン大学の単位は取得できないが、修了試験の結果によって修了証が授与されるほか、特別講座は、海外の派遣元の大学での単位として認定されることもある。

特別講座としては、2002年から、夏期集中講座²として、ハワイ大学³の学生を中心に、6週間の集中講座(Advanced Study of Khmer Program)を開いている。午前4時間(8:00~12:00)の講座に加え、午後や週末は社会見学やホームステイのプログラムが組まれている。

また、2004年からは、1年間の講座を、中国の広西大学(Guanxi University)、雲南大学(Hunan University)に提供している。10~20名の学生が、自国のそれぞれの大学で2年間学んだのち、このコースに留学する。受講生の進路としては、カンボジアに進出している中国系企業に就職することもある。

教材は、レベルごとに、*Khmer Literature for Foreigners- Book 1* (レベル1)、*Khmer Language* (レベル2)、*We Learn Khmer* (レベル2から4)のいずれかを用いる。さらに上級の場合には、新聞、雑誌、書籍、非営利団体報告書等からの抜粋を用いる。特別講座では、受講生の派遣元である、カンボジア国外の大学で作成した教材を使うこともある。

2.2. カンボジア国外の例(東南アジア研究夏期集中講座 SEASSI)

カンボジア国外でのカンボジア語教育は、複数の国の大学で、さまざまなレベルで行われているが、本稿では、その1例として、米国の東南アジア研究夏期集中講座 SEASSI(Southeast Asian Studies Summer Institute)を紹介する。この講座は、ビルマ語、フモン語、インドネシア語、カンボジア語、ラオ語、タガログ語、タイ語、ベトナム語に加え、ジャワ語の講座を、現在は、ウィスコンシン大学マディソン校(the University of Wisconsin-Madison)で開講している。

カンボジア語講座は、1983年に開始され、ウィスコンシン大学では1994~95年と2000年に降に行っている。カリキュラムは、8週間(月曜~金曜8:00~12:30、3、4時間の自習が必要)で、2学期分の単位となる。3レベル(初級、中級と中上級、上級)がある。

カンボジアからの移住者の第二世代が多く参加するため、中級の最初の部分は、母語話者は別クラスで授業を行う。また、大学所在地には、カンボジアからの移住者が多く在住し、カンボジアの寺院もあるため、仏教を中心とした文化体験や料理の試食等もコースに組み込まれている。

講座のコーディネータは、東南アジアの言語の教授法を専門とする言語学者がつとめ、他にその言語の母語話者が講師をつとめる。カンボジア語は、前述の王立プノンペン大学の教員が短期派遣される⁴。教授言語はカンボジア語で、英語の使用は最小限である。

講座は、学部生、大学院生、研究者を対象としており、2009年は23名(初級11名、中級10

² この夏期集中講座は、年度によっては王立プノンペン大学ではなく Center for Khmer Studies との共催で開講される。

³ ハワイ大学マノア校言語・言語学・文学部インド・太平洋言語学科のカンボジア語講座は1988年に開講され、学部の外国語の単位として認定される。4レベル(入門、中級、上級、文学・文化)と文学の講座がある。教材は、独自教材の *Communicating in Khmer* (1、2-1、2-2、3-1、3-2の各レベル)を用いる。

⁴ 2009年と2010年の場合、2名の母語話者講師が参加した。

名、上級2名)、2010年は17名(初級8名、中級7名、上級2名)が受講した⁵。

教科書は、講座のコーディネータが開発した独自教材を用いる。レベルに応じ、初級(非母語話者)は *Muk Khmae*、中級・上級は、*Kamlang Phiasaa*、そして、小説に解説を加えた *Sophat* が用いられる。午前中の授業以外にも課題が多く、eラーニングが推奨され、ユニコードのカンボジア文字のタイピング技術が必要とされる。教材として、視聴覚教材(音楽や映像資料)で現在の文化を紹介したり、仏教や伝統習慣、礼儀作法も扱うのが特徴的である。

評価に占める中間期末試験の割合は少なく(15パーセント程度)、試験も、筆記試験とともに、スキットや劇を演じたり、受講生自身が企画立案し、ビデオ録画されるプレゼンテーションを行う口頭の試験が重視される。

表1 時間割の例(第一週火曜日の例)

1 : 8:00-8:50	2 : 9:05-9:55	3 : 10:25-11:15	4 : 11:30-12:30
初級:カンボジア人講師 挨拶、日常会話	初級:コーディネータ 名前、代名詞、返答、疑問 詞、接続詞	初級:カンボジア人講師 1、2限で学んだ語彙の復 習と語彙の使用練習	初級:カンボジア人講師 既習語彙を使った劇
中級:コーディネータ 子音文字	中上級:カンボジア人講師 子音文字の復習と母音記 号		中級:カンボジア人講師 既習の子音文字の復習と その他の子音文字
上級(話す):カンボジ ア人講師 物語中の初対面の会話	上級(読む):カンボジ ア人講師 物語「魚が蟻を食う」 タイトルの意味、直接的な 意味と比喩的な意味	中上級:コーディネータ 記号の復習	

3. カンボジア語能力の測定

本章では、2章で紹介したカンボジア語講座における筆記試験の出題例を分析し、さらに、東京外国語大学で行っているカンボジア語統一試験を紹介する。本章で紹介する出題例は、調査協力者の経験を聞き取りしたものであり、各試験は、出題者(その授業のその年度の担当者)が作成したもので、その教育機関が統一的に採用しているものではない。

3.1. カンボジア語講座における筆記試験の出題例

2章で既述の通り、SEASSIでは、成績評価の方法は平常点と課題が大きな比重を占めており、2週ごとに行われる試験も口頭(講師との会話、スキットの実演)によるものが必ず行われている。筆記試験の場合には、書き取り、英訳、カンボジア語訳が含まれている。上級の期末試験になると、受講生自身の企画立案したプレゼンテーション以外に、筆記試験として、仏教の

⁵ 教授者からの聞き取り調査によると、教授困難な点は、(1)形容詞文に、不要なbe動詞を入れるなど、作文が英語からの直訳文になりやすいこと、(2)初級以外のクラスでは、カンボジアからの移住者の二世世代(家庭での会話はできるが、読み書きができない)が多く、クラス内での個人差が大きい、ことである。

教義についての質疑応答の書き取りや、現代の短編小説についての議論に関する設問がある。

初級の場合、中間の筆記試験（4週目）の出題例を以下に示す。

(1) 単語の書き取り（各5点 x 5問）：月、長い、祖（父）、老人、牛

(2) カンボジア語文の英訳（各10点 x 3問）：

- ・私は叔母の家へと山を登った。
- ・彼（女）はカンボジアに行ったが、叔父の家を訪ねなかった。
- ・先生は私にたくさん質問する。

(3) 英文のカンボジア語訳（各5点 x 3問）：

- ・彼はプノンペンの兄を訪ねている。
- ・彼女の家に行くな。
- ・叔父と叔母はカンボジアに住んでいる。

(4) カンボジア語の単語とイラストを線で結ぶ（各3点 x 10問）：

列、老人、象、バナナ、本、低い、机、お母さん、牛肉、ランブータン

ハワイ大学の通常講座の筆記試験（初級）は、以下のような設問から構成されている。

- ・単語の空欄補充（子音文字を入れる）
- ・文字表の空欄補充（子音文字を入れる）
- ・写真の果物の名前を選ぶ
- ・文の空欄補充（単語を入れる）
- ・曜日と月を書く
- ・与えられた単語を使って作文する
- ・単語を並べ替え作文する

王立プノンペン大学の夏期集中講座の筆記試験（中級レベル）は、以下のような設問から構成されている。

- ・英語に相当するカンボジア語の単語を選ぶ
- ・反意語を選ぶ／同義語を選ぶ
- ・質問に対する答えを選ぶ
- ・正しい単語を選び、文を完成させる
- ・単語を並べ替え作文する
- ・英文カンボジア語訳
- ・自由作文（旅行について、あなたの国の病院について）

以上の出題例の特徴としては、カンボジア語の文字の複雑さから、まず文字を読めるように

なるまでに学習時間がかかること、したがって、初級レベルでは、媒介言語や画像を利用した試験が主である。また、選択式が多く、カンボジアの文字を書かなくても正答する可能性がある。

3.2. 東京外国語大学のカンボジア語統一試験

東京外国語大学でのカンボジア語統一試験は、王立プノンペン大学への派遣留学生⁶の選抜試験を兼ねた初級能力試験として、1、2年次学生を主対象に行っている。基本的には年1回行い、リスニングを含め、1年1学期で学ぶテキスト⁷から既出の文法事項と語彙のみで出題をしている。平均正答率は50パーセント前後である。その内容を以下に提示する。

- 1) リスニング (短い物語をきいて質問の答えを書く)
- 2) 文字と発音と語彙(子音と脚の文字表の空欄補充、単語の読み方を発音記号で書く、文字の読み方を確認するための語彙とその意味を書く)
- 3) 文法 (カンボジア語文に単語を空欄補充、日本語訳、カンボジア語訳)の3部から構成される。

前節で紹介した他講座の筆記試験と共通するものは、以下の4形態である。

- ・文字表の空欄補充 (子音文字を入れる)
- ・文の空欄補充 (単語を入れる)
- ・カンボジア語文の外国語訳
- ・外国語文のカンボジア語訳

一方で、大きな違いは、統一試験には選択式の問いがなく、文字を正しく書けない限り得点できないこと、文法的に正しい文を作っても綴りのミスにより得点が減ることである。

前節で紹介した各教育機関の出題例にあった選択式の問のうち、とくに、

- ・カンボジア語の単語とイラストを線で結ぶ
- ・英語にあたるカンボジア語の単語を選ぶ

の問題点は、該当する単語が、2音節以上の語か1音節語か、単語全体を視覚的に見てどのような形であったか⁸、また最初の音が何であったか、というあいまいな記憶でも正解できる確

⁶ 派遣留学生は、プノンペン大学で、「外国人のためのカンボジア語」コースではなく、社会人文学部のいずれかの学科の3年次のクラスに編入される。試験の結果、単位が取得されれば、所定の手続きを経て東京外国語大学の卒業単位として互換され認定される。

⁷ 『カンボジア語入門』坂本恭章、大学書林、1989年、カンボジアの民話から抜粋。

⁸ 学習者によっては、文字の規則を理解するより、既出の単語を音節ごと漢字のように視覚的に暗記するのを好む傾向がある。当然のことながら、この方式では未知の単語は読めないし、語彙を増やすことはできない。

率が高いことである。

それに対し、以下のような選択問題は、誤答の選択肢の作り方によっては、難易度があがることもある。

- ・正しい単語を選び文を完成させる
- ・反意語を選ぶ／同義語を選ぶ
- ・質問に対する答えを選ぶ

選択式の問題以外に、作文問題として、

- ・与えられた単語を使って作文する
- ・自由作文（旅行について、あなたの国の病院について）

という問題については、与えられた単語を使った作文問題では、すべての問いに、文脈にかかわらず同じ語を並べただけの解答がでやすく、採点が難しい。同様に、自由作文の場合、たとえテーマを設定しても、文化や背景の差異から、受験者の作文の伝えたい内容が採点者に伝わりにくいことが多く採点は容易ではない。

統一試験の得点分布は、概ね通常の学期の成績に比例する。通常の学期の成績は、授業での発言や口頭での発表の評価も含んでいるため、この能力試験では測っていない口頭表現能力も一定のレベルでは測定できていると考えられる。しかしながら、米国での講座のように、カンボジアからの移住者の第二世代の能力を測定するには、口頭表現能力を測定するための別の方法が必要であろう。

4. おわりに

以上、本稿では、外国語としてのカンボジア語教育の実践例を挙げ、言語能力測定の方法について可能性をさぐった。

語学教師ではない、一般の母語話者が、外国語としてカンボジア語を学んだ学習者のカンボジア語能力を測定する方法は、いわゆる「アイウエオ」、「ABC」にあたる、文字表の最初の5文字を読ませることである。しかし、「アイウエオ」、「ABC」と異なり、カンボジア語の文字表の最初の4文字は、たとえ文字の識別ができて発音⁹が難しく、かつ、その発音の差異は日常会話に大きな支障を及ぼさないため、大半の学習者がこの「試験」に落第し、入門段階で学習意欲を失っている。実際には、この「試験」に落ちても、新聞や小説を読む能力があったり、日常や仕事の会話で不自由しないレベルに達する学習者が大半である。

ヨーロッパ諸言語や東南アジアの島嶼部の言語等、ラテン文字を用いる言語と異なり、学習

⁹ 無気音と有気音のペアがあり、さらに母音のレジスター（音色）が異なるペアがあるが、一般の日本語話者には4種の文字の読み方がすべて「コー」としか聞こえない。

者にとって、レベルを分ける最初の壁は、文字が読めるか読めないか、であろう。文字の識別ができ、音との対応規則をひとたび理解すれば、文法事項の学習にそれほど大きな困難を覚えることはない。しかしながら、大半の学習者がこの壁の前で学習を放棄していることを考えると、まず、初級段階で、文字と音の対応の理解度を測るべきであり、授業で覚えた数少ない単語を正確に記憶したり、与えられた手本通りに、簡単な文やカードを書写できるということは達成度を測る基準となりにくい。

その一方で、文字の学習をおえた中級の学習者にとっては、初級以上に教材も少ないため、文字を覚えた母語話者の用いる教材（中学、高校等の国語や社会の教科書）が利用されることが多い。しかし、こういった教科書は、母語話者が当然知っているであろう語彙の説明はなく、内容も、社会生活を学ぶ若い世代のためのものに偏っており、外国語として学ぶ学習者のためには適切ではない。中級学習者にとって適切な教材や教授法、そして上級も対象に含む能力測定試験の開発が望まれる。

補足. カンボジア国内の外国語能力測定について

補足として、カンボジア国内の外国語教育について、英語とフランス語の例を挙げておく。

英語¹⁰は、中学・高校の6年間教授され、高校卒業試験には、英語とフランス語の科目がある。また、留学選抜のためには、IBT-TOEFL、IELTSを用いる。その他、王立プノンペン大学では、英語学科をのぞく新生生に対し英語のレベル分けを行う。そのレベル分けテストの得点によって、入門（0）、初級（15点未満）、初中級（15～25点）、中級（25～40点）、中上級（40～50点）の各レベルに分かれて学習する。

ヨーロッパ共通参照枠（CEFR）の利用については、網羅的な調査は行えなかったが、フランスで学位を取った教員が多く、フランス語で行われる授業もあるカンボジア工科大学（Institute of Technology of Cambodia）では、CEFRを用いており、5年間で留学可能な語学レベル（B2レベル）に到達するのが目標とされる、という報告がある¹¹。

¹⁰ 学校での英語教育は、7年生から12年（中学と高校に相当する）で教科書として、*English for Cambodia Book I-VI*を用いている。

¹¹ カンボジア工科大学リティ・プルム氏による講演「CEFRを適用した外国語教育の実践～カンボジアの言語状況とカンボジア工科大学のカリキュラムについて～」（金沢大学外国語教育研究センター-2010年11月8日）